

# 地域委員会単位の人口の出入りを把握しよう

では、各地域はどの世代からの流入が多く、どの世代の流出が多いのでしょうか？当センターで平成 22 年・平成 27 年の国勢調査をもとに、コーホート図を作成しました。コーホート図とは、統計上の概念で、ある一定期間内に生まれた人の集団をいいます。例えば、ある地域における 10～14 歳の年代層が、5 年後の 15～19 歳の時の数の増減によって、5 年後にその地域から同世代が流入した、あるいは他地域へ流出したことがわかります。

地域委員会ごとにまとめたところ、とても興味深い結果が出ました。

まず、15～19 歳から 24～29 歳にかけて、人口が流出する地域が多くみられますが、瀬尻地区、西部地区、特に下有知地区では、人口の流入が見られます。他地域では、それに追隨して、30～34 歳から 34～39 にかけて人口が増えています。また、80～84 歳から 84～90 歳にかけて人口が減少する地域が多くなりますが、

90 歳以降に人口が増えている地域も多くあります。

このグラフでは、「18 歳未満同居世帯率」と「高齢者率」のグラフでは見えにくい人口の流れが良く分かります。たとえば、25 歳から 29 歳の流入が多い瀬尻地区では、新卒の社会人の転入が多いと考えられ、自治会組織の加入への取り組みが必要になると考えられます。30～39 歳にかけて流入が多くなる田原地域では、子育て世代に向けた地域サポート体制が必要になると考えられます。どの年齢層に向けた取り組みを行えばよいのか、地域のお困りごとを考えてみましょう。

また、関市市民活動センターでは、地域委員会のサポートをしています。講演、相談、事業のサポートなどなど、様々なことに対応いたします。まずはぜひご相談ください。

文責：小関加奈（関市市民活動センター）

## 関市地域別人口コーホート図（平成27年-平成22年）

